

## 第3次地域福祉活動計画 進捗状況報告書

(期間:平成30年4月1日~平成31年3月31日)

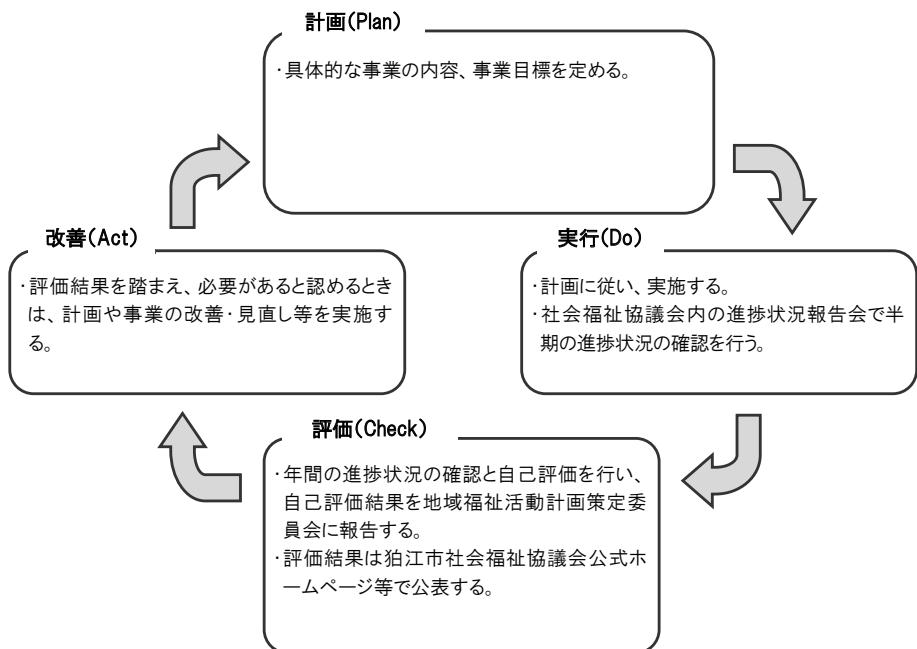
### 1 地域福祉活動計画の進捗管理の目的と方法について

本計画を具体的な事業として実現するとともに、目標数値を確実に達成するためには、計画期間中、PDCAサイクルによる進捗管理を行い、その結果を地域福祉活動計画策定委員会に対して公開し、その上で、評価における課題に基づいた計画や事業の見直し等を実施する必要があります。

そこで本計画においては、以下のサイクルに従って毎年度、計画の進捗管理を実施していきます。

図表 PDCAサイクルによる進捗管理

※第3次地域福祉活動計画 104P から



図表 評価(Check)から改善(Act)へのスケジュール

※第3次地域福祉活動計画 104P から

①半期の進捗確認	②年間の進捗確認及び自己評価	③計画策定委員会の評価及び評価結果の公表	④次年度への反映
施策の担当部署が半期分の実績を整理する。 社会福祉協議会内の進捗状況報告会で各施策の進捗状況の確認を行う。	施策の担当部署が、事業評価シートに基づき進捗状況の確認及び自己評価を行う。 進捗状況報告会で各施策の進捗状況の確認を行う。	評価結果を地域福祉活動計画策定委員会に報告し、進捗状況及び評価の確定と次年度の課題整理を行う。 評価結果を狛江市社会福祉協議会公式ホームページ等で公表する。	評価結果における次年度の課題に基づき、必要に応じて計画や事業の改善・見直し等を行い、次年度以降の予算の積算及び要求を行う。

今ここです

### 2 今回の対象期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日を対象期間とし、平成30年度の各施策・取り組みについて進捗状況の報告、評価等を行います。

### 3 進捗状況の報告

この進捗状況報告書は、この表紙のほか、進捗状況評価シート総括表及び進捗状況評価シートで構成されています。各施策の進捗状況の報告は、進捗状況評価シート総括表及び進捗状況評価シートにて行います。

### 4 評価の目安

各施策の評価は、施策を構成する事業の実施状況等を踏まえ、施策の進捗状況を総合的に判断し、次の目安により行います。

- A — 設定した目標を超える成果を得た
- B — 設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た
- C — 設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った
- D — 設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

## 進捗状況評価シート総括表

(期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日)

基本目標	施策目標	施策	施策評価
1 地域を支えるひとづくり	(1) お互いに支え合う気持ちを育てます  (2) 住民が主体的に地域の課題に取り組める様々なきづかりを作ります	① 福祉教育の推進  ② 福祉意識の普及啓発	B
2 支えあいを応援するまちづくり	(1) 地域を支える個人・団体に情報提供をします  (2) 地域を支える個人・団体の活動を応援します	① 地域を支える福祉人材の育成  ② 地域福祉活動に関する新たな人材の発掘	B
3 地域の課題を共有し、みんなで支えるまちづくり	(1) 地域の隠れた困りごとを見つけます  (2) 住民による地域の課題への主体的な取組みをサポートします  (3) 地域の課題の解決を関係者とともに考えます	① 社協による情報発信  ② 個人・団体への情報提供  ① 地域での気づきや関心を促す「であい」と「ふれあい」の場づくり  ② 個人・団体の活動支援	C
4 安心して元気に暮らせるまちづくり	(1) 地域での健康寿命の増進に住民が自発的に取り組む活動を支援します  (2) 障がいのある方が地域で暮らし続けることができるよう支援します  (3) 判断能力が不十分な方の権利を守ります  (4) 平常時からの地域の防災体制を作ります	① アウトリーチ（訪問活動）による問題発見、解決への取組み  ① 住民が地域課題を共有し、共にその課題を解決していく仕組みづくり  ② 地域課題の共有ができる住民同士のネットワークづくりの促進  ① 福祉関係者との連携体制構築による課題発見と解決の仕組みづくりの検討  ② 生活困窮者等への支援の実施  ③ 社会福祉法人のネットワーク化の取組み（地域貢献に関するとりまとめ）  ① 地域の健康増進活動の応援  ② 住民主体の介護予防・生活支援サービスの活動支援  ① 障がい者（児）の長期的な地域生活につながる支援  ② 障がい者の就労支援  ① 権利侵害の早期発見と対応強化  ① 防災、減災の意識を高める取組みの実施  ② 災害時の対応に備えた取組みの実施	A

施策評価の目安

A—設定した目標を超える成果を得た

B—設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た

C—設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った

D—設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

## 進捗状況評価シートの見方

基本目標	2 支え合いを応援するまちづくり	施策目標	(1) 地域を支える個人・団体
施策	①社協による情報発信		
事業名	a ホームページ、広報紙等を活用した情報発信		
事業目的	市民の福祉サービス利用や福祉事業参加の促進、地域福祉活動に取り組む団体活動支援を目的として、ホームページ等により、広く市民に情報を発信する。		
事業内容 (抜粋)	市民の福祉サービス利用や福祉事業参加を促進するため、これまでチラシの配布や広報紙の発行等、主に紙媒体により情報発信を行ってきた。しかし、市民の情報収集は、インターネットを活用した方法が主流になりつつあり、今後は情報を受け取る側の年代のほか、行動や意識等の変化に合わせ、効果的な情報発信をしていく必要がある。例えば、高齢者などあまりインターネットに馴染みのない世代に対しては、引き続きチラシや広報紙等の紙媒体で、インターネットを積極的に活用している比較的若い世代に対してはホームページやツイッター等を活用した情報発信を行うなど、世代や対象に合わせて情報発信の方法を変えたり、さらにデザインやキャッチフレーズ等の工夫をしたりすることで効果的な情報発信に努める。		「基本目標」、「施策目標」、「施策」、「事業名」、「事業目的」、「事業内容（抜粋）」は、「社会福祉法人泊江市社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画」のP52,53 及びP63～P99から抜き出したものが記載されています。
前年度 からの 課題			「前年度からの課題」、「課題解決への取組みとその結果」については、今回は計画の初年度のため、空欄となります。
課題解決へ の取組みと その結果			
事業目標	2018年度目標値 ●ホームページ ・アクセス数 11,000件～	2018年度実績値 ●ホームページ ・アクセス数 27,816件	左側は、計画策定時に設定した「2018年度の事業目標値」。 右側は、その目標値に対する「2018年度の実績値」となります。
主な 事業成果 や課題	◆ホームページについては、より見やすく、使いやすく、親しみやすいものを目指して、デザインやメニュー構成を全面的に見直すリニューアルを行った。また、ツイッターと併せ情報発信をタイムリーに行うことで、ホームページアクセス数も増え、目標を大幅に上回ることができた。 ◆ツイッターについては、フォロワー数が目標値に達しなかった。		ながりを維持・促進する様々な機能を提供するWeb。「ツイート」と呼ばれる半角280文字以内の画像、URLをインターネット上に投稿できる。
課題解決 への今後の の取組み	「ハッシュタグの活用」、「相互フォロワーを増やす」等、ツイッターのフォロワー数を増やす取組みを行う。		2018年度の事業実施における主な事業成果や課題が記載されます。 ツイッターで利用できるキーワードのこと、自

社会福祉法人 泊江市社会福祉協議会  
第3次地域福祉活動計画

# 進捗状況評価シート

(期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日)

### 施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た

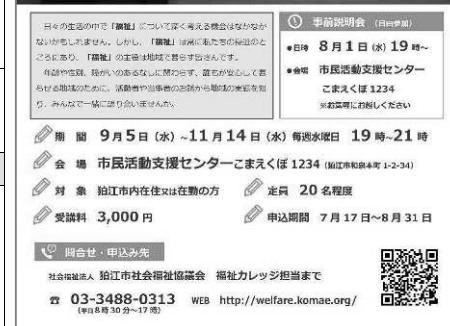
B – 設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た

C – 設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った

○—設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	1 地域を支えるひとづくり	施策目標	(1) お互いに支え合う気持ちを育てます	施策評価 (年間)	B		
施策	②福祉意識の普及啓発						
事業名	a 認知症に対する理解促進事業の実施	b 障がいに対する理解の促進	c 体験ボランティア事業のプログラムの充実				
事業目的	認知症になつても住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域の支え合い体制の構築に向けて、幅広い年代を対象に、認知症に対する正しい知識と理解を深める取組みを行う。		障がいのある人もお互いに支え合い、安心して生活できる地域社会を推進するため、福祉や障がいのこと興味・関心がある市民に対して、手話の入門講座をはじめとした気軽に参加できるような講座や啓発を目的とした講演会を実施し、障がいに対する理解を促進するとともに福祉意識の普及啓発を行う。	社会福祉施設や地域でのボランティア体験を通じて社会福祉やボランティア活動についての理解を深め、様々な出会いの中から新しい発見や「共に生きる」視点を育む。			
事業内容 (抜粋)	市内の福祉施設（グループホームや認知症対応型通所介護事業所）と連携した認知症サポーターフォローアップ研修の企画・実施をすることで、認知症サポーター同士のネットワークの構築を行うとともに、認知症の当事者・家族を支える具体的な活動を施設単位でできるように進めていく。 また、研修のプログラムに若年性認知症当事者からの体験談、地域での生活課題の共有、障がい疑似体験等を組み込むことで、認知症サポーターの認知症に対する理解をさらに深めていく。		手話の入門講座のほか、福祉や障がいのこと興味・関心がある市民を対象に啓発を目的とした講演会などを実施する。障がい関連団体や事業所などの協力を得て、気軽に市民が参加できるような啓発活動（例えば市内作業所の説明及び製品の即売会等）なども実施することで、興味・関心を深めてもらい、福祉カレッジや福祉のまちづくり委員会（仮称）のほか、地域の福祉活動にもつなげていくことを目指す。	①夏！体験ボランティア 7月中旬から9月上旬にかけ、体験的にボランティアに参加する機会を設ける。参加者に対しては活動を振り返る機会を設け、直接ニーズを把握することで、新しいプログラムの開拓と充実につなげる。 ②働いている世代へ向けた取組み 仕事をしている現役世代が仕事後や休日などに地域活動に参加していくよう、広報周知による意識向上と、実際に参加につながるようにコーディネートを行う。			
前年度からの課題							
課題解決への取組みとその結果							
事業目標	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値		
	●市内福祉施設と連携して実施する認知症サポーターフォローアップ研修 ・市内福祉施設と調整し、研修企画の検討を行う。	●市内福祉施設と連携して実施する認知症サポーターフォローアップ研修 ・2019年度「認知症支援を考える会」の開催内容を検討した。 (つむぎ泊江と打ち合わせ3回)	●手話入門講座の実施 ・5回（受講者 17名～）	●手話入門講座の実施 ・5回（受講者 8名）	●夏体験！ボランティア ・参加者数 80名～ ・プログラム数 50件		
	●市内福祉施設での個別支援策の実施 ・市内福祉施設と調整し、個別支援策の実施検討を行う。	●市内福祉施設での個別支援策の実施 ・市内福祉施設と調整し、個別支援策の実施検討を行った。	●啓発活動の実施 ・啓発的な活動の企画・準備	●啓発活動の実施 ・啓発的な活動の企画・準備を行い、次の取り組みを行った。 ・家族・支援者向け対人関係学習会 1回 参加者 15名 ・当事者向けの選挙支援（わかりやすい演説会）への協力。 ・泊江市役所にて、麦の穂の活動内容を紹介、自主製品の即売会に参加。 ・市内幼稚園・保育園の職員を対象とした研修会（ペアレントトレーニング）の実施。参加者（延べ） 16名 ・保護者向け特別支援教育についての説明会の実施 参加者 36名 ・保護者向け障がい児通所施設説明会の実施協力（放課後等デイサービス合同説明会） 参加者 8名	●働いている世代へ向けた取組み ・コーディネート件数 5件～		
主な事業成果や課題	市内福祉施設と連携して実施する認知症サポーターフォローアップ研修の対象を広げていくことで、認知症支援について考える人材を育成していくこととなつた。						
課題解決への今後の取組み	手話入門講座については、ツイッターの活用や学校関係にも広報を行う等周知活動に力を入れ、20名近い受講者を集め。						

施策評価の目安 A－設定した目標を超える成果を得た B－設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C－設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D－設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	1 地域を支えるひとづくり	施策目標	(2) 住民が主体的に地域の課題に取り組める様々なきっかけを作ります	施策評価 (年間)	B
施策	①地域を支える福祉人材の育成				
事業名	【重点事業】a 福祉カレッジの開催		●別紙報告書あり	b 専門的な技術で支える担い手の養成	a 福祉カレッジの開催
事業目的	思いやりを持って共に支え合い、助け合うという「共に生きるまちづくり」について学習する機会をつくり、地域を支える福祉人材の育成をすることを目的として、福祉カレッジ（仮称）を開催する。			高齢者や障がい者の地域でのより良い暮らしを支援するため、専門知識や技術を習得できる研修や講習会を実施し、地域の「支え手」として活動する人材を育てるとともに、地域での活躍を促す。	
事業内容 (抜粋)	2018年度のプレ開催をステップに、次年度以降毎年度開催する。全12回程度を毎週1回開催の3か月間で学ぶ形式を予定している。 講師には、各種専門家、地域での活動者のほか、認知症高齢者や家族介護者、障がい当事者等を招くことでより実践的な内容とし、共に生きるまちづくりへの共感を深めるとともに、地域への貢献意欲を高めていく。また、座学だけでなく、グループワークやロールプレイを組み入れた体験型の講義も行うことで学習効果を高める。 福祉カレッジ修了生には、当会の事業を中心とした地域活動の紹介を行い、カレッジで学んだことや経験を地域で活かすことができるよう積極的に働きかけ、地域活動につなげていく。		福祉における支援は、専門的な技術が必要な場面も多く、支援する側の継続的な人材育成が欠かせない。福祉カレッジ（仮称）や障がいに対する理解促進のための事業で地域における支援の必要性を理解した住民が、必要に応じて専門性を高められるように、次の研修や講習会を実施する。 ①認定ヘルパー研修 ②ガイドヘルパー研修 ③手話講習会／要約筆記講習会 ④手話・要約筆記通訳者研修		
前年度からの課題					
課題解決への取組みとその結果					
事業目標	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値	2018年度実績値	★ 福祉カレッジの魅力 ・高齢、障がい、子ども、災害、それぞれ地域社会に関わる多様な講師（当事者や活動者）による講義 ・地域活動を発信するワークやフレートーク（意見交換） ・フィールドワーク（体験活動、深入字考察）を通じて実践的なプログラム
主な事業成果や課題	<p>◆当初の目標どおり、20名（65才未満の割合73%）の参加者がおり、このうち19名が修了した。</p> <p>◆福祉カレッジ受講後、福祉業界へ転職したり、ボランティア活動を新たに始めたり、多世代交流の居場所として自宅の開放を始めたりする修了生もあり、福祉の担い手創出につながることができた。</p> <p>◆修了生が自発的にメーリングリストを活用した情報共有や、定期的な情報交換会を開催するようになった。</p> <p>◆座学だけにとどまらずグループワークも組み入れた講義が中心だったものの、全体的にボリュームがある内容だったため、参加者にとってはやや詰め込み型のカレッジとなってしまった。</p>				
課題解決への今後の取組み	2019年度の開催においては、より学習効果を高め、参加者の一人ひとりに目がとどきやすく、さらにきめ細かな学びあいが行えるよう、講義回数を増やす一方、定員は減らす形での実施を検討する。				
施策評価の目安	A-設定した目標を超える成果を得た	B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た	C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った	D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった	

基本目標	1 地域を支えるひとづくり	施策目標	(2) 住民が主体的に地域の課題に取り組める様々なきっかけを作ります	施策評価 (年間)	B															
施策	②地域福祉活動に関わる新たな人材の発掘																			
事業名	a 笑顔サービス協力会員の募集		b 募金活動等の協力者、協力先の募集	<p>-b 募金活動等の協力者、協力先の募集一</p> <p>●街頭募金活動の様子</p> 																
事業目的	市民の協力を得て有償の家事援助等を提供することにより、高齢者や障がい者、子育て世帯が住み慣れた地域での生活を持続可能とすることを目的とする。		共同募金運動（歳末たすけあい、赤い羽根共同募金）や狛江市社会福祉協議会の会員（賛助会員）等に対する市民の関心を高め、寄付や入会につなげていくために、募金や会員募集等の呼びかけに協力していただける市民（協力委員や募金ボランティア）を増やすとともに、町会・自治会や店舗、企業など団体の協力先を開拓する。																	
事業内容 (抜粋)	<p>笑顔サービスは、市民相互扶助の考えに基づき、住民同士の「ささえあい」「まなびあい」の活動として成り立っている登録会員制による住民参加型の有償家事援助サービスで、市民の協力により、高齢者や障がい者、子育て中の世帯等に対し、家事援助（掃除、洗濯、食事作り、買い物等）や通院介助等のサービスを提供している。</p> <p>子育てを終えられた世代や仕事をリタイアされた世代に特にターゲットを絞り、募集説明会に足を運んでもらい協力会員を増やしていくことが必要である。</p> <p>協力会員が増えることで、地域での支え合い活動への理解促進や、地域での役割を担うことにもなり、また、介護予防としての活用も考えられ、結果として狛江市社会福祉協議会の会員の増加にもつながる。</p>		共同募金運動や会員募集の協力者である協力委員が年々減少しており、その結果募金や会費など地域福祉事業を推進するための財源が乏しくなっている状況がある。 <p>そこで、新たな協力者を確保するため、福祉カレッジ受講生をはじめとした地域での福祉活動に意欲的な方に向けて、協力委員活動や募金ボランティアの取組みを周知し参加を募るとともに、町会・自治会や協賛店（当会の取組みに対して賛同し、ともに地域福祉を推進する地域の商店等）の協力を得て募金や会員募集等の取組みを行い、地域福祉事業の充実につなげていく。</p>																	
前年度 からの 課題																				
課題解決へ の取組みと その結果																				
事業目標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 2px;">2018 年度目標値</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">2018 年度実績値</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">2018 年度目標値</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">2018 年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;">●募集説明会 ・10 回</td><td style="padding: 2px;">●募集説明会 ・10 回（参加者 計 22 名）</td><td style="padding: 2px;">●協力者（会費協力委員や募金ボランティア） ・160 名～</td><td style="padding: 2px;">●協力者（会費協力委員や募金ボランティア） ・296 名（会員事業 60、赤い羽根 147、歳末たすけあい 89）</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">●協力会員数 ・新規登録 10 名～</td><td style="padding: 2px;">●協力会員数 ・新規登録 13 名</td><td style="padding: 2px;">●協力町会・自治会 ・会費 26 ・歳末たすけあい 8 ・赤い羽根 15</td><td style="padding: 2px;">●協力町会・自治会 ・会費 25 ・歳末たすけあい 8 ・赤い羽根 15</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td style="padding: 2px;">●協力協賛店 ・4 か所</td><td style="padding: 2px;">●協力協賛店 ・28 か所（会員事業 24、赤い羽根 3、歳末たすけあい 1）</td></tr> </tbody> </table>	2018 年度目標値	2018 年度実績値	2018 年度目標値	2018 年度実績値	●募集説明会 ・10 回	●募集説明会 ・10 回（参加者 計 22 名）	●協力者（会費協力委員や募金ボランティア） ・160 名～	●協力者（会費協力委員や募金ボランティア） ・296 名（会員事業 60、赤い羽根 147、歳末たすけあい 89）	●協力会員数 ・新規登録 10 名～	●協力会員数 ・新規登録 13 名	●協力町会・自治会 ・会費 26 ・歳末たすけあい 8 ・赤い羽根 15	●協力町会・自治会 ・会費 25 ・歳末たすけあい 8 ・赤い羽根 15			●協力協賛店 ・4 か所	●協力協賛店 ・28 か所（会員事業 24、赤い羽根 3、歳末たすけあい 1）			
2018 年度目標値	2018 年度実績値	2018 年度目標値	2018 年度実績値																	
●募集説明会 ・10 回	●募集説明会 ・10 回（参加者 計 22 名）	●協力者（会費協力委員や募金ボランティア） ・160 名～	●協力者（会費協力委員や募金ボランティア） ・296 名（会員事業 60、赤い羽根 147、歳末たすけあい 89）																	
●協力会員数 ・新規登録 10 名～	●協力会員数 ・新規登録 13 名	●協力町会・自治会 ・会費 26 ・歳末たすけあい 8 ・赤い羽根 15	●協力町会・自治会 ・会費 25 ・歳末たすけあい 8 ・赤い羽根 15																	
		●協力協賛店 ・4 か所	●協力協賛店 ・28 か所（会員事業 24、赤い羽根 3、歳末たすけあい 1）																	
主な 事業成果 や課題	<p>◆募集説明会への参加者のうち約半数が笑顔サービス協力会員としての新規登録につながり、実際に活動を開始した。</p> <p>◆新規登録者数は目標値を超えており、登録だけで活動しない方や辞めてしまう方も一定数いるため、協力会員数の増につながっていない。</p>																			
課題解決 への今後 の取組み	<p>協力会員数を増やすため、活動者として想定する層に募集説明会の開催情報が届くよう、新たな周知先や周知方法を試みる。</p>																			

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	2 支え合いを応援するまちづくり	施策目標	(1) 地域を支える個人・団体に情報提供をします	施策評価 (年間)	B				
施策	①社協による情報発信								
事業名	a ホームページ、広報紙等を活用した情報発信								
事業目的	市民の福祉サービス利用や福祉事業参加の促進、地域福祉活動に取り組む団体への活動支援を目的として、ホームページ等により、広く市民に情報を発信する。								
事業内容 (抜粋)	市民の福祉サービス利用や福祉事業参加を促進するため、これまでにはチラシの配布や広報紙の発行等、主に紙媒体により情報発信を行ってきた。しかし、市民の情報収集は、インターネットを活用した方法が主流になりつつあり、今後は情報を受け取る側の年代のほか、行動や意識等の変化に合わせ、効果的な情報発信をしていく必要がある。例えば、高齢者などあまりインターネットに馴染みのない世代に対しては、引き続きチラシや広報紙等の紙媒体で、インターネットを積極的に活用している比較的若い世代に対してはホームページやツイッター等を活用した情報発信を行うなど、世代や対象に合わせて情報発信の方法を変えたり、さらにデザインやキャッチフレーズ等の工夫をしたりすることで効果的な情報発信に努める。								
前年度からの課題									
課題解決への取組みとその結果									
事業目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018 年度目標値</th> <th>2018 年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●ホームページ ・アクセス数 11,000 件～</td> <td>●ホームページ ・アクセス数 27,816 件</td> </tr> <tr> <td>●ツイッター ・フォロワー数 80～</td> <td>●ツイッター ・フォロワー数 72 ※ツイート数 48</td> </tr> </tbody> </table>	2018 年度目標値	2018 年度実績値	●ホームページ ・アクセス数 11,000 件～	●ホームページ ・アクセス数 27,816 件	●ツイッター ・フォロワー数 80～	●ツイッター ・フォロワー数 72 ※ツイート数 48	<p>●ホームページ</p>  <p>●ツイッター</p> 	<p>- 補足説明 -</p> <p>○ツイッター ソーシャル・ネットワーキング・サービス（人ととの社会的なつながりを維持・促進する様々な機能を提供する Web サービス）のひとつ。「ツイート」と呼ばれる半角 280 文字以内のメッセージや画像、動画、URL をインターネット上に投稿できる。</p> <p>○フォロワー ツイッターにおいて、特定のユーザーの更新状況を手軽に把握できる機能設定を利用した、そのユーザーの活動を追っているファンのような人のこと。</p> <p>○ハッシュタグ ツイッターで利用できるキーワードことで、自分の投稿を任意のキーワードで分類して、多くの人からの検索を容易にする。</p>
2018 年度目標値	2018 年度実績値								
●ホームページ ・アクセス数 11,000 件～	●ホームページ ・アクセス数 27,816 件								
●ツイッター ・フォロワー数 80～	●ツイッター ・フォロワー数 72 ※ツイート数 48								
主な事業成果や課題	<p>◆ホームページについては、より見やすく、使いやすく、親しみやすいものを目指して、デザインやメニュー構成を全面的に見直すリニューアルを行った。また、ツイッターと一緒に情報発信をタイムリーに行うことで、ホームページアクセス数も増え、目標を大幅に上回ることができた。</p> <p>◆ツイッターについては、フォロワー数が目標値に達しなかった。</p>								
課題解決への今後の取組み	「ハッシュタグの活用」、「相互フォロワーを増やす」等、ツイッターのフォロワー数を増やす取組みを行う。								

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た

B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た

C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った

D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	2 支え合いを応援するまちづくり	施策目標	(1) 地域を支える個人・団体に情報提供をします	施策評価 (年間)	C
施策	②個人・団体への情報提供				
事業名	a 活動場所の情報収集及び情報提供	b 助成事業、ファン等の周知及び利用促進			
事業目的	市内の各地域でボランティアや市民活動が活発に展開されるように、個人・団体の活動可能な場所について情報収集及び情報提供を行う。	地域団体による活発な活動を経済面で支援するため、広報紙、ホームページ、メールマガジン等により、助成事業やファン等の情報の周知を行うとともに、利用の促進を図る。			
事業内容 (抜粋)	活動可能場所の情報の収集と一覧化を行い、ボランティア・市民活動団体等への情報提供に活かす。 また、公民館や地域センター等の公的な活動場所以外に活動に活用できる場として、施設、民間団体等のスペースや個人宅の解放の働きかけ・提案を行い、活動場所の開拓を行う。	助成金や地域資源を団体が活用しやすいように、収集した情報を整理し、広報紙、ホームページ、メールマガジン等により発信していくとともに、助成金等の活用事例についての周知も行い、利用促進を図る。 また、助成金相談や申請のための支援を通じ、案内することが多いアドバイスや、良くある質問を FAQ（よくある質問と回答集）にまとめ、ホームページで周知し、初期相談に活かす。			
前年度からの課題					
課題解決への取組みとその結果					
事業目標	<p><b>2018 年度目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●施設・民間団体等へ活動場所の開放の働きかけ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所の情報収集及び開拓先の検討を行う。</li> </ul> </li> <li>●活動場所の情報提供           <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所に関する情報の一元化と提供方法について検討を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>2018 年度実績値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●施設・民間団体等へ活動場所の開放の働きかけ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所の情報収集及び開拓先の検討を行った。</li> </ul> </li> <li>●活動場所の情報提供           <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報量が少ないため、情報の一元化までには至らず、提供方法の検討も行えなかつた。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>2018 年度目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●助成金情報の提供（主にホームページとメールマガジンによる）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜（30～40 件程度）</li> </ul> </li> <li>●活用事例紹介（主にメールマガジンによる）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 件～</li> </ul> </li> <li>●申請等に関するワンポイント情報の発信（主にメールマガジンによる）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 件～</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>2018 年度実績値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●助成金情報の提供（主にホームページとメールマガジンによる）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページに掲載（54 件）</li> </ul> </li> <li>●活用事例紹介（主にメールマガジンによる）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・0 件～</li> </ul> </li> <li>●申請等に関するワンポイント情報の発信（主にメールマガジンによる）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌こまえがお（第 7 号）に掲載 1 件</li> </ul> </li> </ul>	
主な事業成果や課題	<p>◆施設・民間団体等へ活動場所の開放の働きかけについては、団体の活動場所として、公民館へ働きかけ、話し合いの場を設定することができ、自宅開放型の居場所づくりの情報（2 件）について、コミュニティソーシャルワーカーと情報共有を行った。</p> <p>また、各種会議へ参加して活動場所に関する情報収集を行った。</p> <p>◆活動場所の情報提供については、柏江市空家等対策推進協議会の情報も含めて、市内の状況について十分に調べることができず、情報量が少ない状況である。</p> <p>また、活動場所に関する情報の提供方法の検討もできなかつた。</p>		団体の利用状況や課題などの収集ができなかつた。		
課題解決への今後の取組み	活動場所の情報提供については、施設等への聞き取りやアンケート等から新たな情報を得て、これまでに得られている情報と合わせて整理を行う。		活動資金に関する勉強会等を実施し、地域団体の活動資金面での課題や助成金等の利用状況を収集する。利用状況のデータは、講師のアドバイスなどと合わせてホームページ、広報誌等で発信する。		

施策評価の目安 A－設定した目標を超える成果を得た B－設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C－設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D－設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	2 支え合いを応援するまちづくり	施策目標	(2) 地域を支える個人・団体の活動を応援します	施策評価 (年間)	B	
施策	①地域での気づきや関心を促す「あい」と「ふれあい」の場づくり					
事業名	a 小地域福祉活動の支援					
事業目的	誰もが安心して住み慣れた地域で暮らしていくけるまちづくりを目指し、日頃から「顔の見える関係」をつくるため、住民の主体性を活かした交流や支え合いの活動を支援する。					
事業内容 (抜粋)	<p>狹江市社会福祉協議会がこれまで培ってきた支え合い活動のノウハウを活用しながら、活動支援や立ち上げ支援を進めていく。</p> <p>また、2018年度配置予定のコミュニティソーシャルワーカー（地域福祉コーディネーター。以下「CSW」という。）とともに本計画の重点事業の一つでもある福祉のまちづくり委員会（仮称）の立ち上げや推進、住民懇談会の実施を進める。</p> <p>①住民主体の活動支援・・・サロンや地域での見守りをはじめとする、住民主体の支え合い活動に対し、側面的な支援を行う。</p> <p>②活動立ち上げ支援・・・新たに支え合い活動を始めたい住民や団体の活動開始に係る支援をCSWと連携しながら行う。より身近な地域資源の情報を把握し、必要な情報をタイムリーに提供することで住民の主体性を活かしながら、市内全域に活動をひろげていく。</p> <p>③CSWや関係機関等との連携（情報共有会議の実施）・・・住民や活動団体から寄せられる地域課題及び課題解決につながる情報を把握し、担当地区のCSWや必要な専門機関、関係団体等と連携することで住民がより暮らしやすいまちづくりを目指していく。</p>					
前年度からの課題						
課題解決への取組みとその結果						
事業目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018年度目標値</th> <th>2018年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活動支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域型サロン3地域（岩戸、猪方・駒井、野川）</li> <li>・地区型サロン2か所</li> <li>・小規模サロン2団体</li> </ul> </li> <li>●活動立ち上げ支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・2件～</li> <li>・各地域状況把握</li> </ul> </li> <li>●情報共有会議           <ul style="list-style-type: none"> <li>・6回</li> </ul> </li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活動支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域型サロン3地域（岩戸、猪方・駒井、野川）</li> <li>・地区型サロン3か所（西和泉1丁目、西和泉2丁目、中和泉5丁目）</li> <li>・小規模サロン0団体</li> </ul> </li> <li>●活動立ち上げ支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・0件</li> <li>・各地域状況把握</li> </ul> </li> <li>●情報共有会議           <ul style="list-style-type: none"> <li>・6回</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	2018年度目標値	2018年度実績値	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域型サロン3地域（岩戸、猪方・駒井、野川）</li> <li>・地区型サロン2か所</li> <li>・小規模サロン2団体</li> </ul> </li> <li>●活動立ち上げ支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・2件～</li> <li>・各地域状況把握</li> </ul> </li> <li>●情報共有会議           <ul style="list-style-type: none"> <li>・6回</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域型サロン3地域（岩戸、猪方・駒井、野川）</li> <li>・地区型サロン3か所（西和泉1丁目、西和泉2丁目、中和泉5丁目）</li> <li>・小規模サロン0団体</li> </ul> </li> <li>●活動立ち上げ支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・0件</li> <li>・各地域状況把握</li> </ul> </li> <li>●情報共有会議           <ul style="list-style-type: none"> <li>・6回</li> </ul> </li> </ul>	
2018年度目標値	2018年度実績値					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域型サロン3地域（岩戸、猪方・駒井、野川）</li> <li>・地区型サロン2か所</li> <li>・小規模サロン2団体</li> </ul> </li> <li>●活動立ち上げ支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・2件～</li> <li>・各地域状況把握</li> </ul> </li> <li>●情報共有会議           <ul style="list-style-type: none"> <li>・6回</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域型サロン3地域（岩戸、猪方・駒井、野川）</li> <li>・地区型サロン3か所（西和泉1丁目、西和泉2丁目、中和泉5丁目）</li> <li>・小規模サロン0団体</li> </ul> </li> <li>●活動立ち上げ支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・0件</li> <li>・各地域状況把握</li> </ul> </li> <li>●情報共有会議           <ul style="list-style-type: none"> <li>・6回</li> </ul> </li> </ul>					
主な事業成果や課題	<p>◆和泉地域（あいとぴあエリア）でサロン活動を行う団体からの「活動の中で会食会を企画・実施したいがどのようにしたら良いか」という相談を受け、先進的に取り組んでいる他地域の活動を紹介するとともに、視察に同行し会食会実施に向けての支援を行うことができた。</p> <p>◆コミュニティソーシャルワーカー等と協働し東和泉において地域懇談会を実施し、地域課題等の情報を収集・共有するとともに、その課題整理を行うことができた。</p> <p>◆小規模サロンの活動支援については、活動支援要件を満たす団体がなくなったため、支援件数が0団体となつた。</p> <p>◆活動立ち上げ支援については、新たなニーズがなかったため、0件となった。</p>					
課題解決への今後の取組み	各地域において、住民主体の新規活動を促せるよう、活動助成のあり方及び周知方法について検討する。					

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	2 支え合いを応援するまちづくり	施策目標	(2) 地域を支える個人・団体の活動を応援します	施策評価 (年間)	B		
施策	②個人・団体の活動支援						
事業名	a 市民活動支援センター（こまえくぼ1234）を活用した活動支援	b セルフヘルプグループへの支援方法の検討	c 社協の助成金制度の充実				
事業目的	ボランティア・市民活動団体、町会・自治会など、より良い市民生活の実現に向け地域課題の解決に取り組む市民や市民活動団体を支援する。		市内のセルフヘルプグループがそれぞれ必要としている支援を適切に行うために、支援内容や支援方法を検討し、実施する。	新たな福祉課題の解決や地域福祉の推進に取り組む団体の活動を支援していくため、社協の助成金制度を充実させていく。			
事業内容 (抜粋)	<p>ボランティアや市民活動に関する相談、団体の設立・運営等に関する専門相談など、対面による相談を行う。職員による相談のほか、活動者・活動団体同士で相談し合えるように、市民協力者を募る。そのために、活動に役立つノウハウを学ぶ機会を設けたり、他団体とつながるきっかけとなる機会づくりの事業を実施するほか、ホームページや広報紙による事例紹介を行う。</p> <p>なお、2018年度については、2019年度以降5年間の市民活動支援センターの指定管理受託について検討を行う。</p>		<p>市内で活動するセルフヘルプグループの全てを把握するまでは至っていない状況があるため、市内のセルフヘルプグループの数や活動状況、そして必要としている支援があるかどうか等を調査し、各グループの状況を把握した上で支援方法を検討し、必要に応じて支援を行っていく。</p> <p>※セルフヘルプグループ・・・障がいをはじめとした悩み等を抱えた人が同様の課題を抱えている個人やその家族とともに、当事者同士の自発的なつながりで結びつき、自主的に活動を行うグループ。</p>	<p>福祉活動を行う団体への支援として、柏江市社会福祉協議会では「あいとびあ助成金」「小地域福祉活動助成金」「福祉教育研究園助成金」の3つの助成事業を実施している。</p> <p>財源である歳末たすけあい募金の募金額が年々減少しており、財源確保とともに限られた財源を有効活用していくための改善や工夫が必要である。</p> <p>財源確保のための取組みとして、歳末たすけあい募金を増やす取組みを行うとともに、歳末たすけあい募金以外の財源の確保、活用についても検討し実施していく。</p> <p>また、団体のニーズや助成先の実績などを踏まえ、各助成金制度の課題を改善していくための取組みを行い、団体が求める支援に合致した助成金制度になるように改善していく。</p>			
前年度からの課題							
課題解決への取組みとその結果							
事業目標	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値		
事業目標	●ホームページや広報紙による事例紹介 ・5件～	●ホームページや広報紙による事例紹介 こまえがお（5～7号）により、 ・こまえくぼ1234の活用事例 4件 ・相談事例 2件	●支援方法の検討 ・既存のグループからの情報収集及び今までの支援継続、新規グループの情報収集と関係づくり	●支援方法の検討 ・既存の当事者グループ2か所（まえちゃんのピア、生きづらさ茶話処）を見学し活動内容や運営課題について情報収集を行った。 ・コミュニケーションソーシャルワーカーの個別支援の関わりの中で、ひきこもりに関する相談があり、身近な場所における家族支援やひきこもりに対する地域理解を深めていく必要性を理解し取り組みを行った。 ・家族向け講演会 1回（参加者 17名） ・支援者、地域向け講演会 1回（参加者 35名） ・生きづらさ茶話処 2回（参加者延べ18名）	●助成総額と助成件数 ・180万円（22件）	●助成総額と助成件数 ・1,569,000円（17件）	
	●相談件数 ・250件	●相談件数 ・284件	●財源の確保 ・財源を増やす検討を行う。	●財源の確保 ・歳末たすけあい運動事務打合せ会で、協力委員とともに募金を増やすための検討を行った。	●財源の確保 ・歳末たすけあい運動事務打合せ会で、協力委員とともに募金を増やすための検討を行った。		
	●専門相談会 ・実施回数 4回～	●専門相談会 ・実施回数 4回（団体の参加 5団体（11名）、個人での参加 2名）	●助成制度の改善 ・各助成金制度の課題分析及び調査研究を行う。	●助成制度の改善 ・あいとびあ助成金では、市民活動支援センターと連携し、勉強会「助成金って何？」と同日に説明会を実施するなどの取組みを行ったが、助成金制度の改善を行うまでは至らなかった。	●助成制度の改善 ・あいとびあ助成金では、市民活動支援センターと連携し、勉強会「助成金って何？」と同日に説明会を実施するなどの取組みを行ったが、助成金制度の改善を行うまでは至らなかった。		
	◆専門相談会や勉強会を通じて、活動団体の活動分野や形態が異なっていても、「他団体と交流したい」「助成金や活動資金について学びたい」等の共通の課題を抱えていることが明らかになった。	◆実際にセルフヘルプグループを見学し、課題や困っていることなどをヒアリングすることで、必要とする支援を行うことができた。	◆歳末たすけあい募金で財源確保の検討を行い、協力自治会を増やす取組みを行った結果、新たにひとつの町会から協力を得ることができた。				
主な事業成果や課題	◆ホームページを使った事例紹介については、実施ができなかった。	◆生きづらさ茶話処の開催を定例化することができた。その中で、ひきこもり等の当事者が、どこの相談支援機関ともつながっていない等の課題が多くあることが明らかになった。	◆歳末たすけあい募金については、協力自治会は増えたが、募金総額は前年度を下回る結果となった。				
課題解決への今後の取組み	ホームページで「よくある相談」の掲載を開始できるよう、これまでの相談の整理を行う。	ひきこもり等の子を持つ家族への支援については、対話を通じての気づき、学びの場となるような場を設けるとともに、家族が主体となった家族会活動に発展するよう支援を行う。	◆あいとびあ助成金については、前年度は20団体へ1,000,000円助成できたが、今年度は10団体へ689,000円助成し、団体数、助成総額ともに減少した。				

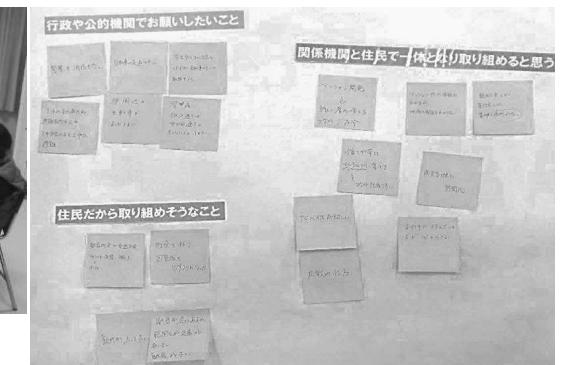
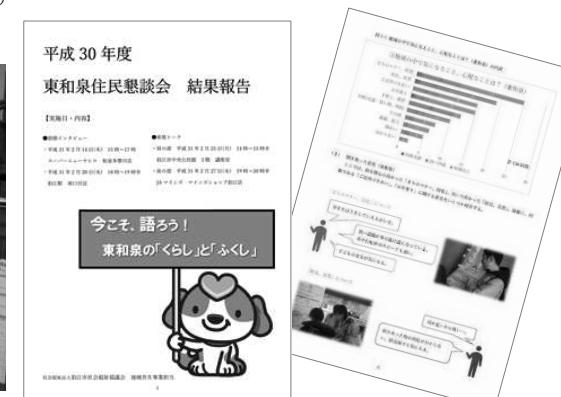
施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	3 地域の課題を共有し、みんなで支えるまちづくり	施策目標	(1) 地域の隠れた困りごとを見つけます	施策評価 (年間)	A	
施策	①アウトリーチ（訪問活動）による問題発見、解決への取組み					
事業名	【重点事業】a コミュニティソーシャルワーカー（地域福祉コーディネーター）の配置		●別紙報告書あり			
事業目的	アウトリーチを中心としたアプローチにより、地域の福祉課題やニーズを発見し、地域住民・組織や関係機関と協力しながら、解決に向けた支援を行うとともに、地域における支え合いの仕組みづくりや地域での生活を支えるネットワークづくりを行うことを目的として、地区ごとにコミュニティソーシャルワーカー（地域福祉コーディネーター。以下「CSW」という。）を配置する。					
事業内容 (抜粋)	6年間で狛江市内3地区にCSWを段階的に配置し、アウトリーチを中心とした個別支援 <sup>※1</sup> のほか、地域支援 <sup>※2</sup> 、仕組みづくり <sup>※3</sup> を役割とした活動を展開していく。 ※1 個別支援・・・公的なサービスや地域の支援だけでは解決しきれないニーズや課題を受け止め、対象者に寄り添いながら、解決に向けた支援を行う。 ※2 地域支援・・・地域の関係機関や団体等との連携・協力とそのネットワーク化を図りながら、地域の課題解決力を向上させる。 ※3 仕組みづくり・・・個別支援や地域支援を通じて蓄積された情報やノウハウを基に、新たなサービスの提案や仕組みづくりにも携わる。本計画の重点事業の一つでもある「福祉のまちづくり委員会（仮称。以下「委員会」という。）」の立上げや推進、住民懇談会の実施にも関わる。					
前年度からの課題						
課題解決への取組みとその結果						
事業目標	<p><b>2018年度目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●CSWの配置・取組み           <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいとぴあエリアにCSW1名を配置し、個別支援及び地域支援を開始する。また、委員会設置に向けて検討を行う準備会の立上げにも関わる。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>2018年度実績値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●CSWの配置・取組み           <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいとぴあエリアにCSW1名を配置し、次のとおり支援を行った。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援 63 ケース、延べ 257 回対応</li> <li>・地域支援 17 ケース、延べ 121 回対応</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>また、まちづくり委員会の立ち上げ準備として、地域課題の把握を目的とした住民懇談会を、東和泉地域において実施した。</p>		<p>はじめまして！ 略してCSWといいます <b>コミュニティソーシャルワーカー</b></p> <p>福祉に関する困りごとは、お気軽にご相談ください。</p> <p>私が、あいとぴあエリア（中和泉、西和泉、元和泉、東和泉）を担当します。コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の岸 真（きし まこと）と申します。地域の皆様が安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を関係者とともに目指します。まずは、皆様の声をお聞かせください。</p> <p>狛江市社会福祉協議会では、住民の皆様の尊厳な相談窓口として平成30年4月からコミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置を開始しました。</p> <p>●コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は今ある制度では解決しにくく困ることを抱えている方に寄り添い、一緒に考え方、解決できるようにお手伝いします。また、一人ひとりの支援に加え、地域づくりのパートナーとして、地域の皆様のさえあいの支援を行います。</p> <p>ご相談・問合先 社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会 住所：狛江市元和泉2-35-1 あいとぴあセンター内 電話：03-3488-0313 メール：csw@welfare.komae.org 受付時間：平日 8時30分～17時00分</p> <p>詳しくは裏面をご覧ください</p> <p>●配置初年度ということもあり、積極的に各関係機関等に赴き、CSW（コミュニティソーシャルワーカー）の役割等について周知活動を行った。</p> <p><b>コミュニケーション</b></p> <p>●「どこに相談して良いかわからないで困っていた。」「市役所や専門機関に相談に行くのは気がひいていた。」という方が、CSWのチラシやポスターを見たことで、相談に来てくださった。</p> <p><b>主な事業成果や課題</b></p> <p>◆個別支援においては、これまでどの支援機関ともつながっていない、ひきこもり、精神障がい等の課題がある方々に対して相談対応及び解決に向けた支援をすることができた。このほか、市民活動団体、民生児童委員等からの相談から相談支援機関や行政へとつないでいく支援ができた。</p> <p>◆地域支援においては、ひきこもりの相談から、家族の居場所づくりへとつなげることができた。</p> <p>◆これまで社会福祉協議会との関わりがなかった又は少なかった地域団体や支援機関等との連携も増えたことで、これまでよりも相談支援の幅が広がった。</p> <p>◆「どこに相談して良いかわからないで困っていた。」「市役所や専門機関に相談に行くのは気がひいていた。」という方が、CSWのチラシやポスターを見たことで、相談に来てくださった。</p> <p><b>課題解決への今後の取組み</b></p>		

施策評価の目安 A－設定した目標を超える成果を得た B－設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C－設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D－設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

<b>基本目標</b>	3 地域の課題を共有し、みんなで支えるまちづくり	<b>施策目標</b>	(2) 住民による地域の課題への主体的な取組みをサポートします	<b>施策評価 (年間)</b>	C
<b>施策</b>	<b>①住民が地域課題を共有し、共にその課題を解決していく仕組みづくり</b>				
<b>事業名</b>	【重点事業】a 福祉のまちづくり委員会（仮称）の設置				
<b>事業目的</b>	より身近な生活圏域の中で、地域住民や地域の様々な団体等が自ら地域の課題に気づき、共有し、ともにその解決に取り組む仕組みとして、市内3地区に福祉のまちづくり委員会（仮称。以下「委員会」という。）を設置する。				
<b>事業内容 (抜粋)</b>	<p>現在、狛江市には日常生活圏域の課題を地域住民が共有し、その解決に向けて取り組む会議体がない。そこで、狛江市内の3地区において、委員会の土台となる準備会の立ち上げを経て、地域の課題の解決に取り組む委員会の立上げと設置を行う。</p> <p>委員会の構成員は、地域福祉推進委員会の委員・町会・自治会関係者、民生委員・児童委員、地域包括支援センター職員、施設職員、NPO・ボランティア団体関係者、避難所運営協議会の構成員、当事者団体等の構成員のほか、福祉カレッジにおいて人材育成・発掘された住民を予定しており、地区ごとの課題が今まで以上に共有されるとともに、その解決に向けて専門職や関係機関との連携体制が構築される。</p> <p>委員会では、コミュニティソーシャルワーカーが個別支援や地域支援の中で聞き取った課題等のほか、委員会の構成員が持ち寄る地域課題を会議で共有するとともに、地域で支援する方策を検討していく。</p> <p>各地区に委員会が設置された後は、住民懇談会の定期的な開催も委員会で主催し、地域住民の意見の吸い上げや課題の共有、そして住民同士のネットワークづくりの促進にも関わる。</p>				
<b>前年度 からの 課題</b>					
<b>課題解決へ の取組みと その結果</b>					
<b>事業目標</b>	<b>2018年度目標値</b> ●福祉のまちづくり委員会（仮称）の設置と取組み ・あいとぴあエリアにおいて、委員会設置を検討する準備会を立ち上げ、その開催を行う（2回～）。	<b>2018年度実績値</b> ●福祉のまちづくり委員会（仮称）の設置と取組み ・あいとぴあエリアにおいて、準備会の立ち上げ、開催までには至らなかった。			
<b>主な 事業成果 や課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆2018年8月には町田市と多摩市の住民主体で地域課題解決に取り組んでいる地域への視察を実施した。これらの地域への視察を通じ、小地域における課題を把握する必要性のほか、立ち上げ・運営に関するノウハウを集めることができた。</li> <li>◆2019年2～3月には東和泉地域の地域課題を把握するための住民懇談会を実施。街頭インタビュー2回（回答者 164名）、車座トーク2回（参加者 12名）、報告会1回（参加者 4名）を開催した。</li> <li>◆福祉のまちづくり委員会（仮称）に参加していただけそうな方々とのつながりを作る必要性を認識し、当該委員会の立ち上げに向けたステップのひとつとして、東和泉地域において住民懇談会を実施し、東和泉地域の地域課題を収集・整理することができた。</li> <li>◆福祉のまちづくり委員会（仮称）の設置を検討する準備会を立ち上げることができなかつた。</li> </ul>				
<b>課題解決 への今後 の取組み</b>	2019年度中に元和泉、中和泉、西和泉での地域課題をまとめるとともに、福祉のまちづくり委員会の立ち上げに向けて作業を進める。				

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

<b>基本目標</b>	3 地域の課題を共有し、みんなで支えるまちづくり	<b>施策目標</b>	(2) 住民による地域の課題への主体的な取組みをサポートします	<b>施策評価 (年間)</b>	A
<b>施策</b>	<b>②地域課題の共有ができる住民同士のネットワークづくりの促進</b>				
<b>事業名</b>	a 地域情報を共有、意見交換するための「住民懇談会」の実施				
<b>事業目的</b>	地域の現状や課題を共有し、様々な視点や立場から地域課題に対し住民として何ができるかを考えていただくことを目的として、また様々な人々がこの場を機につながり、お互いに理解を深めることで、誰もが住みやすい地域社会となるように、住民懇談会を実施する。	●街頭インタビュー（第1回 2/14 スーパーニューやヒロ和泉多摩川店 第2回 2/20 猪江駅） 市民の关心の高い福祉課題を把握する目的で、東和泉の住民が多く集まりそうな場所で実施した。あらかじめ設定した課題に対し、どのような考え方や想いを持っているのかを聞き取るため、シールを活用したインタビュー形式で行った。			
<b>事業内容 (抜粋)</b>	住民同士が地域について主体的に話し合える場としての「住民懇談会」を猪江市内3地区において順次開催していく。 福祉のまちづくり委員会（仮称）。以下、「委員会」という。の立上げがされた地区においては、委員会が主となり「住民懇談会」の実施を目指す。 「住民懇談会」を通して地域の福祉課題の確認・共有を行い、地域にあった福祉活動の推進及び住民同士の支え合い構築の推進を行うとともに、ここで得られた地域福祉課題、住民ニーズ等は委員会にフィードバックし、解決に向けた検討を行っていく。				
<b>前年度からの課題</b>					
<b>課題解決への取組みとその結果</b>					
<b>事業目標</b>	<p><b>2018年度目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民懇談会の実施 ・あいとぴあエリアにおける住民懇談会の実施を検討する。</li> </ul> <p>〔住民懇談会の内訳〕 街頭インタビュー2回(回答 計164名)、車座トーク2回(参加者 計12名)、報告会1回(参加者 4名)を開催した。</p>	<p><b>2018年度実績値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民懇談会の実施 福祉のまちづくり委員会（仮称）の立ち上げに向けたステップのひとつとして、東和泉地域で住民懇談会を実施した。</li> </ul>	<p>●車座トーク（第1回 2/25 猪江市中央公民館2階講座室 第2回 2/27 JAマイinzショップ猪江店2階会議室） 街頭インタビューで収集した福祉課題等について共有し、その解決法についてグループワーク形式で検討を行った。</p> 		
<b>主な事業成果や課題</b>	住民懇談会の参加者からは「交通マナーに関する事」「住民どうしのつながりに関する事」「地域情報に関する事」「地域の居場所に関する事」などの課題があげられ、課題の解決方法について検討することができた。 解決に至らなかった課題については、立ち上げ予定の福祉のまちづくり委員会（仮称）で検討していく予定である。				
<b>課題解決への今後の取組み</b>					

施策評価の目安

A-設定した目標を超える成果を得た

B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た

C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った

D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	3 地域の課題を共有し、みんなで支えるまちづくり	施策目標	(3) 地域の課題の解決を関係者とともに考えます	施策評価 (年間)	B	
施策	①福祉関係者との連携体制構築による課題発見と解決の仕組みづくりの検討					
事業名	a 福祉専門職懇談会の実施		b 地域ニーズに即した新たなサービスの検討	c 介護予防等による地域づくり推進員(地場支援センター職)との連携		
事業目的	地域における福祉サービスの質の向上を目指すことを目的に、年1回、児童（子ども）・高齢・障がいの各分野に関わる福祉専門職が分野ごとに集まる懇談会を実施する。		コミュニティソーシャルワーカー（地域福祉コーディネーター）や各担当事業内で相談に加え、各種懇談会で把握した課題から、現行制度の狭間にあり、かつ、地域全体の課題となりうることを集約し、新たなサービスの開発を視野に入れた課題解決へのアプローチを検討する。	高齢者の生活課題への取組みと介護予防につながる様々な運動の機会が地域で展開されるように、地域包括支援センターに配置されている介護予防等による地域づくり推進員と生活支援コーディネーターが連携し、生活圏域内の地域課題に取り組む。		
事業内容 (抜粋)	児童（子ども）・高齢・障がいの各分野に関わる福祉専門職が分野ごとに集まる懇談会を実施する。懇談会では、福祉サービスの提供側の視点から、主に地域課題を出し合い、その整理と共有を行うとともに、課題解決のためにできることや必要な支援などについても検討が行えるようとする。また、話し合った内容をどのようにフィードバックしていくかの検討も行う。		これまで各事業における相談等を通して課題の蓄積はあるが、その分析を行い、新たなサービスの開発や仕組み作りにつなげるまでは至っていなかった。 住民懇談会、福祉専門職懇談会、その他専門機関との分野を超えた情報共有や、泊江市社会福祉協議会の各担当部署が部署の垣根を越えて、地域で解決すべき課題についての共有をすることで、今取り組むべき課題が見えてくる。多様かつ複雑な課題も増えている中で、地域だからこそ取り組める現行事業の発展や新たなサービスの開発について、段階を踏みながら検討を行う。	2017年度より地域包括支援センターに配置された介護予防等による地域づくり推進員と泊江市社会福祉協議会に配置されている生活支援コーディネーターが、定期的な推進員連絡会を開催し、生活圏域ごとの地域課題から、市町村単位で解決すべき高齢者の生活課題の整理をしていく。生活課題に対しては、連絡会で取組み目標を絞り毎年1事業ごとに取組みを始める。 介護予防の運動の機会の確保に対しては、地域の運動を中心にする個人や団体の取組みの情報を収集し、高齢者が介護予防を目的とした運動に気軽に参加できる取組みを地域包括支援センター単位で推進していく。		
前年度からの課題						
課題解決への取組みとその結果						
事業目標	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●懇談会（児童）の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回（参加者 7名～）開催し、課題整理・共有・解決検討、啓発的な活動を呼びかける。</li> </ul> </li> <li>●懇談会（高齢）の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回（参加者 20名～）開催し、課題整理・共有・解決検討、啓発的な活動を呼びかける。</li> </ul> </li> <li>●懇談会（障がい）の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回（参加者 16名～）開催し、課題整理・共有・解決検討、啓発的な活動を呼びかけた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●懇談会（児童）の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回（参加者 9名）開催し、課題整理・共有・解決方法の検討を行った。</li> </ul> </li> <li>●懇談会（高齢）の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回（参加者 21名）開催し、課題整理・共有・解決方法の検討を行った。</li> </ul> </li> <li>●懇談会（障がい）の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回（参加者 19名）開催し、地域課題の整理・共有・解決検討、啓発的な活動を呼びかけた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域ニーズに即した新たなサービスの検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の集約・分析を行うとともに、その対象、範囲等の整理を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域ニーズに即した新たなサービスの検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の集約・分析等として、笑顔サービス（住民参加型有償家事援助サービス）の利用会員を対象にアンケートを行ったほか、協力会員・関係機関に向け聞き取り調査を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護予防等による地域づくり推進員との連携           <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進員連絡会を開催し（6回）、生活課題への取組み・解決にあたる。また、介護予防を目的とした運動への高齢者の参加を促進していく。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護予防等による地域づくり推進員との連携           <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進員連絡会を開催し（6回）、生活課題への取組み・解決にあたったほか、介護予防を目的とした運動への高齢者の参加を促進した。</li> </ul> </li> </ul>
主な事業成果や課題	<p>◆懇談会（児童）では、懇談会に加え課題整理のためのアンケート調査を市内の施設・事業所に対して実施し、17の施設・事業所の課題を把握することができた。</p> <p>◆懇談会（高齢者）では、専門職種を介護支援専門員のみでなく、他にデイサービス相談員、訪問看護管理者、他の地域包括支援センター職員・福祉用具相談員・薬剤師と多職種での実施としたことで、それぞれの専門職の職種性を活かした課題だけでなく、専門職自身が抱える色々な課題を聞く機会となつた。</p> <p>◆懇談会（障がい）では、関係機関の様々な職種の参加者から、地域課題や具体的な取り組みを共有・抽出でき、解決に向け当会で取り組み可能である対応を明確にできた。</p>					
課題解決への今後の取組み						

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

<b>基本目標</b>	3 地域の課題を共有し、みんなで支えるまちづくり	<b>施策目標</b>	(3) 地域の課題の解決を関係者とともに考えます	<b>施策評価 (年間)</b>	B										
<b>施策</b>	<b>②生活困窮者等への支援の実施</b>														
<b>事業名</b>	a 生活困窮者支援に取り組む団体や関係機関との連携	b 中間的就労の場の確保に向けた検討													
<b>事業目的</b>	生活困窮者支援関係団体との連携を密に行うことで、地域課題の傾向を把握とともに、生活困窮に至る前の予防的支援や早期発見につなげることを目的とする。	生活困窮者、疾病や障がい、長期にわたるひきこもりの経験等、様々な理由で一般的な仕事につくことが難しい人々の自立の促進を図るために、就労につく前の訓練を行う中間的就労の場の確保に向けた検討を進める。													
<b>事業内容 (抜粋)</b>	生活困窮の課題は、表面的には見えにくい潜在的な課題でもあるため、個別の課題としても相談としてあがってくるのは生活が困窮に至つてからというケースが多い。なぜ、相談につながるのが遅くなってしまうのか、原因を明確にしていくことが早期発見や早期解決につながる。 まずは、生活支援困窮者自立支援制度における自立相談支援機関（こま YELL）と情報共有を行うことで、市内における生活困窮者の傾向を捉える。 また、共通の課題に取り組む相談機関やNPO等のインフォーマルな団体と情報共有を行う機会をつくることで、支援を必要とする方の早期発見と支援が届きやすい環境づくりに努める。	生活困窮者、疾病や障がい、長期にわたるひきこもりの経験等、様々な理由で一般的な仕事につくことが難しい人々を対象に、最初のステップとして短時間の就労体験ができる場の確保を検討していく。 短時間の作業を行う就労体験を通して自信をつけることで、少しずつ不安を克服してもらい、一般就労へのステップアップを図ってもらうとともに、地域社会とのつながりも作れるような場の確保を目指す。													
<b>前年度 からの 課題</b>															
<b>課題解決へ の取組みと その結果</b>															
<b>事業目標</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018 年度目標値</th> <th>2018 年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関や団体との情報共有</li> <li>・情報交換会 1回</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関や団体との情報共有</li> <li>・情報交換会 3回（自立相談支援機関「こま YELL」相談員との勉強会1回、「第1回フードバンクとつながる狛江の団体交流会」への参加 1回・こま YELL 主催の学習ボランティア交流会及び就労支援の取組等情報交換会への参加 1回、子どもの学習支援を行う団体の会議への参加 1回）</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>・情報の分析・整理</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>・市内の生活困窮者を支援する団体や事業についての情報を収集した。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	2018 年度目標値	2018 年度実績値	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関や団体との情報共有</li> <li>・情報交換会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関や団体との情報共有</li> <li>・情報交換会 3回（自立相談支援機関「こま YELL」相談員との勉強会1回、「第1回フードバンクとつながる狛江の団体交流会」への参加 1回・こま YELL 主催の学習ボランティア交流会及び就労支援の取組等情報交換会への参加 1回、子どもの学習支援を行う団体の会議への参加 1回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>・情報の分析・整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>・市内の生活困窮者を支援する団体や事業についての情報を収集した。</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018 年度目標値</th> <th>2018 年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中間的就労の場の確保に向けた取組み</li> <li>・市内に短時間の就労体験ができる場があるかの情報収集と就労体験実施の検討を行う。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中間的就労の場の確保に向けた取組み</li> <li>・市内に短時間の就労体験ができる場があるかの情報収集と就労体験実施の検討を行った。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	2018 年度目標値	2018 年度実績値	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中間的就労の場の確保に向けた取組み</li> <li>・市内に短時間の就労体験ができる場があるかの情報収集と就労体験実施の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中間的就労の場の確保に向けた取組み</li> <li>・市内に短時間の就労体験ができる場があるかの情報収集と就労体験実施の検討を行った。</li> </ul>			
2018 年度目標値	2018 年度実績値														
<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関や団体との情報共有</li> <li>・情報交換会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関や団体との情報共有</li> <li>・情報交換会 3回（自立相談支援機関「こま YELL」相談員との勉強会1回、「第1回フードバンクとつながる狛江の団体交流会」への参加 1回・こま YELL 主催の学習ボランティア交流会及び就労支援の取組等情報交換会への参加 1回、子どもの学習支援を行う団体の会議への参加 1回）</li> </ul>														
<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>・情報の分析・整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>・市内の生活困窮者を支援する団体や事業についての情報を収集した。</li> </ul>														
2018 年度目標値	2018 年度実績値														
<ul style="list-style-type: none"> <li>●中間的就労の場の確保に向けた取組み</li> <li>・市内に短時間の就労体験ができる場があるかの情報収集と就労体験実施の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中間的就労の場の確保に向けた取組み</li> <li>・市内に短時間の就労体験ができる場があるかの情報収集と就労体験実施の検討を行った。</li> </ul>														
<b>主な 事業成果 や課題</b>	生活困窮者の支援を行っている団体（こま YELL、フードバンク、学習サポートプロジェクト等）と、情報交換会を通して連携を深めることができた。	◆地域の社会福祉法人とつながりができ、中間的就労の場の確保について協力を得られることとなった。これにより、この社会福祉法人と連携し、短時間作業を行う就労体験の場を設けられるよう、市内の企業・団体等に業務の切り出しの依頼を行うことができた。  ◆生活困窮者や障がい者を対象とした中間的就労への取り組みを行っている、こま YELL と適宜連携を図ることとなった。  ※こま YELL・・・生活困窮に関する相談業務、就労準備支援等を行う自立相談支援機関。狛江市福祉相談課に窓口がある。													
<b>課題解決 への今後 の取組み</b>															

施策評価の目安 A－設定した目標を超える成果を得た B－設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C－設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D－設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	3 地域の課題を共有し、みんなで支えるまちづくり	施策目標	(3) 地域の課題の解決を関係者とともに考えます	施策評価 (年間)	A
施策	③社会福祉法人のネットワーク化の取組み（地域貢献に関するとりまとめ）				
事業名	a 社会福祉法人の連絡会の開催				
事業目的	市内の社会福祉法人がそれぞれの専門性を発揮しながら連携を深め、安心して暮らせる地域づくりの検討を行うことを目的として、新たに社会福祉法人の連絡会を立ち上げ、定期的な開催を行う。				
事業内容 (抜粋)	<p>2016年3月に改正された社会福祉法の中で、社会福祉法人に対して「地域における公益的な取組」の実施を求める規定が新たに明記された。</p> <p>それに伴い、市内の社会福祉法人が協力し合い、それぞれの専門性を発揮しながら効果的に「地域における公益的な取組」等を行うための連絡会を立ち上げ、市内で活動中の各分野の社会福祉法人に連携を呼びかけていく。</p> <p>連絡会は、各社会福祉法人が得意とする能力を持ち寄って協力するためのプラットフォーム（土台）の役割を担い、各分野の社会福祉法人が相互に連携を図りながら、地域福祉の向上のための「地域における公益的な取組」等の実施を検討していく。</p>				
前年度 からの 課題					
課題解決へ の取組みと その結果					
事業目標	2018年度目標値	2018年度実績値			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉法人の連絡会の立上げと開催           <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内に拠点を置く4つの社会福祉法人が中心となり、連絡会を立ち上げ、その開催を行う（2回～）。</li> <li>・地域課題を共有し、課題に対する取組みの検討を開始する。まずは社会福祉法人を身近に感じてもらえるように、地域住民が気軽に相談できる相談窓口の設置の研究を行う。</li> <li>・市内で活動する他の社会福祉法人にも呼びかけ、さらにネットワーク化を進め、市内で活動する社会福祉法人の5割以上の連絡会入会を目指す。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉法人の連絡会の立上げと開催           <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初の予定よりも早い2017年度に連絡会を立ち上げることができた（市内に拠点をおく5つの社会福祉法人が参加）。2018年度は、連絡会を年4回開催した。</li> <li>・連絡会において、地域課題への共有とその課題に対する取組みの研究・検討を行った。その結果、地域住民が気軽に相談できる相談窓口として「福祉なんでも相談」を各法人に設置することを決定した。</li> <li>・市内で活動する社会福祉法人1法人から新たに問い合わせがあり、入会することとなった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福祉なんでも相談（2019年5月から実施）           <p>「どこに相談したら良いかわからない」、「利用できる窓口や制度を知りたい」等の福祉に関する心配なことや困りごとを身近な社会福祉法人に気軽に相談してもらえるよう、連絡会参加の各社会福祉法人にその窓口を設置する。</p> </li> </ul>		
主な 事業成果 や課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆連絡会の参加法人による研究、意見交換、検討の結果、2019年度5月から「福祉なんでも相談」を開設することが決定した。</li> <li>◆市内で活動する社会福祉法人1法人から新たに問い合わせがあり、入会することとなったものの、市内で活動する社会福祉法人（13法人）の5割以上の入会には至らなかった。</li> </ul>				
課題解決 への今後 の取組み	市内で活動する社会福祉法人の5割以上が連絡会に入会するよう、各社会福祉法人に周知・呼びかけを行っていく。				

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

<b>基本目標</b>	4 安心して元気に暮らせるまちづくり	<b>施策目標</b>	(1) 地域での健康寿命の増進に住民が自発的に取り組む活動を支援します	<b>施策評価 (年間)</b>	B				
<b>施策</b>	<b>①地域の健康増進活動の応援</b>								
<b>事業名</b>	a 高齢者の運動機会の増進と自主グループ支援								
<b>事業目的</b>	自主的に健康増進に取り組む高齢者を増やし、地域の健康寿命を延伸するため、地域の高齢者を対象として行う介護予防普及啓発事業の取組みを推進するとともに、地域における自主的な運動グループの支援を行う。								
<b>事業内容 (抜粋)</b>	<p>現在、サルコペニア（筋肉量の減少により筋力や身体機能が低下している状態）とフレイル（加齢に伴い身体の予備能力が低下し、健康障がいを起こしやすくなった状態）に対する予防が重要であると考えられている。</p> <p>2000 年 4 月の介護保険制度の施行後も介護予防普及啓発事業のひとつの取組みとして、毎年度、日常生活圏域で運動教室を開催している。</p> <p>運動教室には毎回一定の参加者はいるが、同じ高齢者が繰り返し受講することも多く、広く普及しているとは言えない状況がある。</p> <p>そこで今後は、参加対象者や事業プログラムの検証のほか、周知方法等についての検討も行うとともに、運動教室の参加修了者が、参加後にグループを作り（組織化）、自主的に市内各地域で運動教室を運営できるような支援を行い、地域の高齢者が参加できる運動の機会を増やしていく。</p>	<p>●介護予防普及啓発事業 いざみ運動教室</p> 							
<b>前年度 からの 課題</b>									
<b>課題解決へ の取組みと その結果</b>									
<b>事業目標</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018 年度目標値</th> <th>2018 年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <b>●介護予防普及啓発事業</b>            ・介護予防普及啓発事業実施（参加者 20 名～）         </td> <td> <b>●介護予防普及啓発事業</b>            ・いざみ運動教室            計 12 回 参加者 延べ 265 名            ・いきいき運動教室            計 6 回 参加者 延べ 95 名            ・若返りパワーアップ体操教室            計 11 回 参加者 延べ 169 名            ・認知症予防ウォーキング            計 10 回 参加者 延べ 60 名            ・単発教室「介護予防健康体操」            計 1 回 参加者 延べ 16 名         </td> </tr> </tbody> </table>	2018 年度目標値	2018 年度実績値	<b>●介護予防普及啓発事業</b> ・介護予防普及啓発事業実施（参加者 20 名～）	<b>●介護予防普及啓発事業</b> ・いざみ運動教室 計 12 回 参加者 延べ 265 名 ・いきいき運動教室 計 6 回 参加者 延べ 95 名 ・若返りパワーアップ体操教室 計 11 回 参加者 延べ 169 名 ・認知症予防ウォーキング 計 10 回 参加者 延べ 60 名 ・単発教室「介護予防健康体操」 計 1 回 参加者 延べ 16 名	<p>●介護予防普及啓発事業 認知症予防ウォーキング</p> 			
2018 年度目標値	2018 年度実績値								
<b>●介護予防普及啓発事業</b> ・介護予防普及啓発事業実施（参加者 20 名～）	<b>●介護予防普及啓発事業</b> ・いざみ運動教室 計 12 回 参加者 延べ 265 名 ・いきいき運動教室 計 6 回 参加者 延べ 95 名 ・若返りパワーアップ体操教室 計 11 回 参加者 延べ 169 名 ・認知症予防ウォーキング 計 10 回 参加者 延べ 60 名 ・単発教室「介護予防健康体操」 計 1 回 参加者 延べ 16 名								
<b>主な 事業成果 や課題</b>	<p>◆いずれの運動教室も、定員を上回る申し込みがあり、地域の高齢者が参加できる運動機会の増に寄与することができた。</p> <p>◆高齢者による健康増進グループの組織化やその運営支援に関わることができなかった。</p>								
<b>課題解決 への今後 の取組み</b>	狛江市が行う住民主体の介護予防活動の立ち上げ支援等と連携し、介護予防普及啓発における運動教室の参加者へ情報提供を行う。								

施策評価の目安 A－設定した目標を超える成果を得た

B－設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た

C－設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った

D－設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	4 安心して元気に暮らせるまちづくり	施策目標	(1) 地域での健康寿命の増進に住民が自発的に取り組む活動を支援します	施策評価 (年間)	B															
施策	②住民主体の介護予防・生活支援サービスの活動支援																			
事業名	a 生活支援体制整備事業の実施		b 地域での日常生活支え合い活動の普及																	
事業目的	高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的として、生活支援コーディネーターを配置し、住民主体のサービスが活発になるように、地域全体で高齢者を支える体制づくりを地域の方とともに進める。		高齢者の身近な地域での社会参加の機会を充実させるための一つとして、日常生活圏域ごとの運動機会の場である通所型サービスBの取組みを広げていく。また、加齢や障がいにより日常生活に支障が出始めて、その人らしく「いきいき」と活躍し続けられるように、住民同士の身近な支え合い活動として行われる笑顔サービスのさらなる普及を図る。																	
事業内容 (抜粋)	地域包括ケアの推進が進む中、高齢者福祉の中でも住民主体の支え合いがクローズアップされている。しかし、まだスタートしたばかりの事業であるため、介護保険制度の改正による生活の変化に目が行きがちである。まずは、住民の支え合い活動への理解促進が必要とされる。 生活支援コーディネーターは、地域の実態をつかむとともに地域のニーズをひろいながら、不足する資源の開発に注力する。それに伴い、生活支援体制整備協議会（生活支援コーディネーターを組織的にサポートする会議体）による情報交換・協議・検討を重ねながら地域資源の把握、発掘・開発及び資源間のネットワークをひろげいくことが事業の中心となる。		通所型サービスBの取組みが各エリアで進むように、通所型サービスBを行う団体の活動の側面支援をするとともに、地域包括支援センターの圏域内の高齢者に向けて通所型サービスBへの参加の周知・勧説を行うことで、地域での日常的な支え合い活動を普及させていく。 また、住民同士の「ささえあい」「まなびあい」の考えをもとに実施している会員制による住民参加型の有償家事援助サービス「笑顔サービス」については、利用会員・協力会員にとって利便性が高まるように、サービス内容や提供時間等の検討を行い、地域での「あい」「ふれあい」「ささえあい」の活動を活発にし、高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進していく。		<p><b>一 用語説明 一</b></p> <p>○買い物支援マップ 外出が困難となった高齢者の買い物を支援するために作られた地図のこと。 現在、商店やスーパーが少ない駒井町3丁目をモデルエリアとして、移動販売のルート、無人販売所等の情報を掲載している。なお、移動販売に関しても生活支援体制整備事業で誘致している（移動スーパーとくしま）。</p> <p>○地域の見守り体制 独居高齢者が増える一方、町内会への加入が減少する等、昔と比べ近所付き合いが希薄になっていることから、今後高齢者の孤独死が増加することが懸念される。このため、「孤独死の予防として、近隣でゆるやかに見守れる体制」を検討している。</p>															
前年度からの課題																				
課題解決への取組みとその結果																				
事業目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018年度目標値</th> <th>2018年度実績値</th> <th>2018年度目標値</th> <th>2018年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●協議体 ・4回</td><td>●協議体 ・生活支援体制整備協議会 3回</td><td>●通所型サービスB ・あいとぴあエリアにおける通所型サービスBの開始に向け、現活動団体に課題の確認を行う。</td><td>●通所型サービスB ・あいとぴあエリアにおける通所型サービスBの開始に向け、現活動団体に課題の確認を行った。</td></tr> <tr> <td>●関係機関との連絡会 ・6回</td><td>●関係機関との連絡会 ・介護予防等による地域づくり推進員連絡会 6回</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>●その他 ・地域資源の情報集約 隨時</td><td>●その他 ・新規会員登録 60名～</td><td>●笑顔サービス ・新規会員登録 89名</td><td>●笑顔サービス ・新規会員登録 89名 ・訪問型サービスB 4名</td></tr> </tbody> </table>	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値	2018年度実績値	●協議体 ・4回	●協議体 ・生活支援体制整備協議会 3回	●通所型サービスB ・あいとぴあエリアにおける通所型サービスBの開始に向け、現活動団体に課題の確認を行う。	●通所型サービスB ・あいとぴあエリアにおける通所型サービスBの開始に向け、現活動団体に課題の確認を行った。	●関係機関との連絡会 ・6回	●関係機関との連絡会 ・介護予防等による地域づくり推進員連絡会 6回			●その他 ・地域資源の情報集約 隨時	●その他 ・新規会員登録 60名～	●笑顔サービス ・新規会員登録 89名	●笑顔サービス ・新規会員登録 89名 ・訪問型サービスB 4名			
2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値	2018年度実績値																	
●協議体 ・4回	●協議体 ・生活支援体制整備協議会 3回	●通所型サービスB ・あいとぴあエリアにおける通所型サービスBの開始に向け、現活動団体に課題の確認を行う。	●通所型サービスB ・あいとぴあエリアにおける通所型サービスBの開始に向け、現活動団体に課題の確認を行った。																	
●関係機関との連絡会 ・6回	●関係機関との連絡会 ・介護予防等による地域づくり推進員連絡会 6回																			
●その他 ・地域資源の情報集約 隨時	●その他 ・新規会員登録 60名～	●笑顔サービス ・新規会員登録 89名	●笑顔サービス ・新規会員登録 89名 ・訪問型サービスB 4名																	
主な事業成果や課題	協議体及び連絡会において、「地域の見守り体制」の検討・協議を行ったほか、「買い物支援マップ」を作成した。		<p>◆通所型サービスBについては、駒江市の働きかけにより、通所型サービスBの実施団体として、新たに1グループ（えがおいきいき）が発足することとなった。</p> <p>◆通所型サービスBの実施団体（1団体）、行政、包括支援センターによる会議が定期的に開催（年2回）されるようになり、各団体の課題の確認・把握ができるようになった。</p> <p>◆市内全域に活動を展開している通所型サービスBの実施団体「元気スクール」において、組織拡大に伴うリーダー不足という運営上の課題が出ている。</p>																	
課題解決への今後の取組み			通所型サービスBの実施団体「元気スクール」が抱える課題を関係者・関係機関で共有するとともに、その課題解決に取り組む。																	

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	4 安心して元気に暮らせるまちづくり	施策目標	(2) 障がいのある方が地域で暮らし続けることができるよう支援します	施策評価 (年間)	B			
施策	①障がい者（児）の長期的な地域生活につながる支援							
事業名	a 障がい者（児）が集える場所づくり	b 生活に必要な知識を得てもらうための障がい者向け講座の実施	a 障がい者（児）が集える場所づくり ●障がい者（児）が気軽に集える交流の場（フリースペース）					
事業目的	交流や親睦などを通して、障がい者（児）同士の心身の健康づくりや生きがいづくりを図ることを目的として、障がい者（児）が気軽に集える場所づくりを進める。		●障がい当事者が、生活に必要な知識を身につけ、将来にわたって住み慣れた地域で暮らしていけるように、実生活に役立つ知識が得られる体験的なプログラムを実施する。					
事業内容 (抜粋)	障がい特性に起因する「こだわり」や「かんしゃく」等により他者との交流が少なくなったりがちな人や家族の就労等により日中活動終了後、自宅に一人で留守番をしている人、趣味があまりなく休日に行き場所がない人などが、自宅以外でも安心して過ごせるように、障がい者（児）が気軽に集える交流の場（フリースペース）づくりを行う。 月に数回、1日数時間の小スペースの交流場から始め、気軽に立ち寄り、障がい者同士が集まっておしゃべりしたり、パソコンを自由に使えたりするような場を検討する。 また、障がい者（児）は、個々の障がいの程度や成長に応じて違いがあるため、それに応じた福祉サービス、事業所等の情報提供を行っていく。		障がい者料理教室は、狛江栄養士会の協力を得て春と秋の年2回実施する。参加者が自分でできそうな簡単な料理を実際に作ることを通して、健康的な食事の内容や実生活に活かせるスキルを身に付けてもらう。 対人関係学習会は、障がい者が対人関係を豊かに築いていくことを目指して、自分自身を大切にすることや相手を大切にすることなどをわかりやすく伝える。 自立生活を考えるプログラムは、狛江の地域特性上、知的障がい者の参加が多いため、身体障がい者向けに開発されたプログラムをアレンジして実施し、障がい当事者を講師に迎え、参加者が「自立生活」を自分の事として捉えられるように、年金や制度のことをわかりやすく伝えるようにするほか、外出プログラムを通じてお金の使い方や他人とのコミュニケーションを経験してもらえるような工夫をする。					
前年度 からの 課題								
課題解決へ の取組みと その結果								
事業目標	2018年度目標値	2018年度実績値	2018年度目標値	2018年度実績値				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交流の場づくり（フリースペース）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2・4土曜日午後のフリースペース 23回（各回利用者 9名～）</li> <li>・小規模フリースペースの検討を行い、第2・4土曜日以外の平日に試行する（各回利用者 3名～）。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交流の場づくり（フリースペース）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2・4土曜日午後のフリースペース 23回（各回利用者 平均7名～）</li> <li>・小規模フリースペースの検討を行ったが、試行までには至らなかった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障がい者料理教室           <ul style="list-style-type: none"> <li>・4回（各回参加者 10名～）</li> </ul> </li> <li>●対人関係学習会           <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回（各回参加者 13名～）</li> </ul> </li> <li>●自立生活を考えるプログラム           <ul style="list-style-type: none"> <li>・5回（各回参加者 5名～）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障がい者料理教室           <ul style="list-style-type: none"> <li>・4回（参加者 延べ22名）</li> </ul> </li> <li>●対人関係学習会           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目（出前講座）参加者 12名</li> <li>・2回目（上級者編）参加者 10名</li> </ul> </li> <li>●自立生活を考えるプログラム           <ul style="list-style-type: none"> <li>・5回（参加者 延べ31名）</li> </ul> </li> </ul>				
主な 事業成果 や課題	<p>◆小規模フリースペースの試行ができなかった。</p> <p>◆障がい児が気軽に集える交流の場づくりについては、あいとぴあセンターの改修工事により場所の確保ができず、取り組むことができなかった。</p>							
課題解決 への今後 の取組み	<p>◆小規模フリースペースについては、2019年度に実施する。</p> <p>◆障がい児が気軽に集える交流の場づくりについては、2019年度に夏休みを利用して実施する。</p>							
<p>施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった</p>								



b 生活に必要な知識を得てもらうための障がい者向け講座の実施  
●障がい者料理教室



●対人関係学習部会



基本目標	4 安心して元気に暮らせるまちづくり	施策目標	(2) 障がいのある方が地域で暮らし続けることができるよう支援します	施策評価 (年間)	A	
施策	②障がい者の就労支援					
事業名	a 障がい者が安心して働き続けられる支援					
事業目的	就労している障がい者が安心して長く働き続けられるように、様々な機関や関係者と連携をとり支援を進めるとともに、就労を目指している障がい者の就労に向けた相談支援も行う。					
事業内容 (抜粋)	<p>障がい者が長く安心して働き続けるためには、就労時の支援と同様に就労後の支援も重要である。特に、本人の体調面や生活面が安定していること、また、職場内でのコミュニケーションを上手に行い、良好な人間関係を築くことはとても大切である。</p> <p>そこで、企業への定着訪問や定期的な面談等を行い、本人の就労面を支えるほか、体調面では主治医や家族、生活面では他の支援機関や自立支援担当者等とも連携をとり、本人を心身ともに支えていく。</p> <p>また、障がい者を雇用している企業側に対しても、障がいに対する理解がさらに深まるような働きかけを行っていく。</p>					
前年度 からの 課題						
課題解決へ の取組みと その結果						
事業目標	2018 年度目標値	2018 年度実績値				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就労支援登録者数 ・170 名～</li>   <li>●新規就労者数※就労支援登録者のうち、新規に就労を開始した（する）人数 ・30 名～</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就労支援登録者数 ・201 名</li>   <li>●新規就労者数※就労支援登録者のうち、新規に就労を開始した（する）人数 ・33 名</li>   <li>・職場体験実習 4 名</li> </ul>	<p><b>— 用語説明 —</b></p> <p>○職場見学会 職場のイメージを実際につかんでもらうために行う企業等への見学会のこと。 人事の方から「企業が求める人材（例えば、休まず通える人やわからないときには、質問できる人）」についての説明を受けたり、障がい者が働いている現場を見学する。</p> <p>○職場体験実習 企業等で働いた経験がない（少ない）、自分の適性が分からぬ等の障がい者を対象に行う企業等で働く体験をする実習のこと。2018 年度は泊江市役所で職場体験実習を実施。</p>			
主な 事業成果 や課題	<p>◆就労支援登録者数、新規就労者ともに目標値を上回ることができた。</p> <p>また、就労支援登録者を対象者に、就労に向けての勉強会（面接の模擬練習、履歴書の書き方、就労に必要なマナーなど）を実施したこと、就労支援登録者が円滑に就労できるようになった。</p> <p>◆泊江市役所の協力により、職場体験実習を実施することができた。</p>					
課題解決 への今後 の取組み						

施策評価の目安 A－設定した目標を超える成果を得た B－設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C－設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D－設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	4 安心して元気に暮らせるまちづくり	施策目標	(3) 判断能力が不十分な方の権利を守ります	施策評価 (年間)	B		
施策	①権利侵害の早期発見と対応強化						
事業名	a 地域包括支援センターとあんしん泊江の事業連携	b あんしん泊江からの情報提供の促進		<p>- 用語説明 -</p> <p>○地域包括支援センター 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメント等を総合的に行う機関のこと。</p> <p>○あんしん泊江 泊江市社会福祉協議会内の部署のひとつで、判断能力が不十分な高齢者・障がい者が、安心して生活できるように、福祉サービス利用支援及び成年後見等の利用支援を行う。</p> <p>○地域福祉権利擁護事業 認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者など判断能力が十分でない方を対象に、利用者との契約に基づき、地域で安心して暮らせるように、福祉サービス利用援助を中心として、日常的な金銭管理サービス、重要書類の預かり等の支援を行う事業のこと。</p> <p>○生活支援員 認知症、精神障がい等により判断能力が十分でない方を対象に、利用者との契約に基づき、地域で自立した暮らしができるように、福祉サービス利用援助等の支援を行う者のこと。</p>			
事業目的	認知症等により判断能力が低下しても、住み慣れた地域で安心して生活を送れるように、地域包括支援センターとあんしん泊江が連携して高齢者の生活を支える。		認知症高齢者や障がいのある方の権利や財産が適切に守られるように、福祉サービス利用支援や日常的金銭管理サービス、成年後見制度等の利用紹介を行うあんしん泊江からの情報提供及び利用促進を図る。				
事業内容 (抜粋)	<p>判断能力が低下した高齢者が安心して地域生活を継続するためには、生活支援のほか、金銭管理や権利擁護に係る支援も必要となってきている。これに加え、高齢者に関する福祉課題が増大、複雑化・多様化・潜在化・深刻化し、その解決が一層困難となってきている状況がある。</p> <p>このような課題には、単一の福祉サービスだけでは対応しきれない事例もあるため、課題解決に向けては複数の関係機関が連携して取り組む必要がある。</p> <p>そこで、地域包括支援センターと福祉サービス利用支援や日常的金銭管理サービス、成年後見制度等の利用紹介を行うあんしん泊江が互いの強みや専門性を活かしながら協力し合い、連携して高齢者等の生活を支えていく。</p> <p>また、様々な福祉課題に対応をしつつ、関係機関との連携を進めていくには、職員の資質向上も必要であるため、行政、司法書士、あんしん泊江等が共同で開催する勉強会等への参加を通じ知識やスキルを高めていく。</p>			<p>泊江市内の認知症高齢者は年々増加傾向にあり、それに伴い権利侵害や悪質な消費者被害も増えている状況がある。</p> <p>そこで、地域包括支援センターをはじめとする関係機関との連携体制を深めながら地域福祉権利擁護事業及び成年後見制度の普及啓発を行い、高齢者等の権利侵害の予防・発見、権利保障に向けた支援を進めていく。</p> <p>また、居宅介護支援事業所等の関係機関への地域福祉権利擁護事業の事業周知を行うとともに、成年後見制度の利用促進を目的とした講演会を市民向け、事業所向けの2段階で実施することで、あんしん泊江の事業の一層の利用促進を図っていく。</p> <p>これらに加え、権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向けて、中核となる機関の機能を想定した職員の資質向上及び職員体制の整備も検討していく。</p>			
前年度からの課題							
課題解決への取組みとその結果							
事業目標	<b>2018年度目標値</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域包括支援センターとあんしん泊江の連携支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者 9名～</li> </ul> </li> <li>●職員の資質向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、司法書士等と市内権利擁護機関の勉強会等への参加 4回</li> </ul> </li> </ul>	<b>2018年度実績値</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域包括支援センターとあんしん泊江の連携支援           <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者 68名 (新規 43名 繼続 25名)</li> </ul> </li> <li>●職員の資質向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、司法書士等と市内権利擁護機関の勉強会等への参加 5回</li> </ul> </li> </ul>	<b>2018年度目標値</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域福祉権利擁護事業           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉権利擁護事業契約者 60名</li> </ul> </li> <li>●関係機関を通した事業周知           <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業周知 5事業所～</li> </ul> </li> </ul>	<b>2018年度実績値</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域福祉権利擁護事業           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉権利擁護事業契約者 63名 (地域福祉権利擁護事業 59名 対象拡大 4名)</li> </ul> </li> <li>●関係機関を通した事業周知           <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業周知 11団体</li> </ul> </li> </ul>			
主な事業成果や課題	<p>◆地域包括支援センターとあんしん泊江の連携に加え、権利擁護に関わる専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士）との関係性が深まり、個別の課題解決が円滑に進むようになった。</p> <p>◆高齢者対応において、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業だけでは解決できないような困難ケースが多くなってきていた。</p> <p>※困難ケースの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪徳業者と契約てしまい、資産をだまし取られる等の消費者被害を受けているケース</li> <li>・成年後見制度等の利用について本人は前向きであるが、親族が拒否し、家族関係が悪化しているケース</li> <li>・何らかの精神疾患により、必要な支援を拒んだり、逆に過剰な要求をしてきたりするケース</li> </ul>						
課題解決への今後の取組み	<p>高齢者を取り巻く複合的な課題に対して、地域包括支援センターに加え、行政や障がい者相談の窓口等との連携体制を築く。</p>						

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	4 安心して元気に暮らせるまちづくり	施策目標	(4) 平常時からの地域の防災体制を作ります	施策評価(年間)	B
施策	①防災、減災の意識を高める取組みの実施				
事業名	a 防災意識向上のための講座等の実施（福祉カレッジ内で実施）	b ふくしえほん「あいとぴあ」での防災特集の継続			
事業目的	市民の防災意識を高めて市内の防災体制の向上を図るため、福祉カレッジ受講生を対象に防災・減災をテーマにした講座等を実施する。				
事業内容（抜粋）	<p>福祉カレッジ受講生を対象に、講座で身に付けた知識や経験を災害時にも活かせるように、学びの機会を提供する。</p> <p>災害は、平常時からの備えが重要であるとともに、発災時には緊急的な対応と支援が求められる。とりわけ高齢者や障がい者、子育て世帯など災害時に特に支援が必要となる方たちについては、地域全体で見守り、支援していく必要がある。</p> <p>要支援者と支援者が交流し顔の見える関係を築ける仕掛けや、より実践的な支援につながる体験的な内容を取り入れた学びの機会を福祉カレッジ受講生に提供することで、地域における自主的な支援活動を促進し、市内の防災力をさらに高めることにつなげていく。</p>				
前年度からの課題					
課題解決への取組みとその結果					
事業目標	<p><b>2018年度目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●福祉カレッジ内で講座を実施 ・受講生 20名</li> </ul>	<p><b>2018年度実績値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●福祉カレッジ内で講座を実施 防災をテーマとした回（10/17）には、18名の受講生が出席。</li> </ul>	<p><b>2018年度目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●防災特集号配布 ・約 620 名（1993 年度から累計 13,753 名）</li> </ul>	<p><b>2018年度実績値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●防災特集号配布 ・ふくしえほんの防災特集号を作成し、609 名に配布した。（2012 年度から累計 4,062 名）</li> </ul>	
主な事業成果や課題	<p>◆福祉カレッジ内での講座においては、狛江市地域福祉課、安心安全課、三中避難所運営協議会による講義を行った。また、より効果的に防災、減災の意識を高めるため、グループワークとして防災ゲームも実施した。</p> <p>◆福祉カレッジ受講生 20 名のうち約半数が狛江市総合防災訓練に参加し、1 名は災害ボランティアセンター設置訓練に参加した。</p>				
課題解決への今後の取組み					
<p><b>b ふくしえほん「あいとぴあ」での防災特集の継続</b></p> <p>●ふくしえほんの防災特集号</p>   <p>防災特集 <b>いざというとき どうする</b> 保護者のみなさまへ いのちを守る 指し物を聞き行動する じしんや かじは いつおこるか わかりません。 どんなときも おとなのはなしを しっかりきましょ。 ふだんから くれれんに さんかし こころがまえをしておきましょ。</p> <p>●保育園等のふくしえほん担当職員を対象とした研修</p> 					

### 施策評価の目安 A – 設定した目標を超える成果を得た

#### B－設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た

C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った

D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった

基本目標	4 安心して元気に暮らせるまちづくり	施策目標	(4) 平常時からの地域の防災体制を作ります	施策評価(年間)	B																	
施策	②災害時の対応に備えた取組みの実施																					
事業名	a 災害時の協力体制の構築	b 災害ボランティアセンターの立ち上げ、運営の準備																				
事業目的	高齢者や障がい者、子育て世帯等をはじめ災害時に支援が必要な市民に対応するため、関係機関等との連携を強化し、協力体制を構築する。		大規模災害時に災害ボランティアセンターを迅速に立ち上げ、円滑に運営できるよう、訓練を通して平常時から関係機関との連携や市民の協力体制を強化していく。																			
事業内容(抜粋)	災害が起きた時に、高齢者や障がい者、子育て世帯等のニーズに対応できるように、関係機関との連携体制を構築するとともに、支援者として活動できる市民の育成を行う。 具体的には、高齢者や障がい者の当事者団体や支援団体が主体的に行っている会議への参加や、災害時の対応準備に取り組んでいる団体との勉強会等を通してつながりをつくるとともに、福祉カレッジ受講生等を対象に災害に関する講座等を実施して災害時の支援者を増やし、協力体制を構築していく。		高齢者や障がい者等災害時要支援者に対する支援をはじめ、実際に災害が起きたときのニーズを想定しながら、災害ボランティアセンターの立ち上げや災害ボランティアへの対応に関する訓練を実施する。 多くの市民や関係機関が参加する狛江市総合防災訓練や、より広域的な地域で行うブロック協働防災事業等での訓練を通して、市民の防災・減災意識の向上と関係機関との連携を強化するとともに、訓練により明らかになった課題については、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルに反映し、いざという時の災害ボランティアセンターの立ち上げや運営に活かしていく。																			
前年度からの課題																						
課題解決への取組みとその結果																						
事業目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018年度目標値</th> <th>2018年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●関係機関との連携 ・関係機関等と連携した訓練 ※狛江市総合防災訓練への参加回</td><td>●関係機関との連携 ・野川地区避難所運営協議会と連携し狛江市総合防災訓練に参加1回</td></tr> <tr> <td>●講座等 ・1回（参加者20名～）</td><td>●講座等 ・1回（参加者21名） ※「いのちを守る、身近な防災～地震I T S U M O講座～」をボランティアのつどいと同日に開催。</td></tr> </tbody> </table>	2018年度目標値	2018年度実績値	●関係機関との連携 ・関係機関等と連携した訓練 ※狛江市総合防災訓練への参加回	●関係機関との連携 ・野川地区避難所運営協議会と連携し狛江市総合防災訓練に参加1回	●講座等 ・1回（参加者20名～）	●講座等 ・1回（参加者21名） ※「いのちを守る、身近な防災～地震I T S U M O講座～」をボランティアのつどいと同日に開催。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018年度目標値</th> <th>2018年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●訓練の実施 ・1回（参加者10名～、2団体～と連携）</td><td>●訓練の実施 ・1回（参加者9名、1団体（野川地区避難所運営協議会）と連携） ※市総合防災訓練と連携し実施</td></tr> <tr> <td>●マニュアルの見直し ・訓練を通して、適宜検証・見直しを行う。</td><td>●マニュアルの見直し ・訓練を踏まえ、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直しを行った。また、マニュアルを当会ホームページに公開した。</td></tr> </tbody> </table>	2018年度目標値	2018年度実績値	●訓練の実施 ・1回（参加者10名～、2団体～と連携）	●訓練の実施 ・1回（参加者9名、1団体（野川地区避難所運営協議会）と連携） ※市総合防災訓練と連携し実施	●マニュアルの見直し ・訓練を通して、適宜検証・見直しを行う。	●マニュアルの見直し ・訓練を踏まえ、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直しを行った。また、マニュアルを当会ホームページに公開した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018年度目標値</th> <th>2018年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◆「災害時における協力に関する協定」を締結している狛江青年会議所とともに「食と災害の豆本」を作成し、市内小中学校に配布した。</td><td>◆災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直しについては、写真や図を多く使い、災害ボランティアセンターの立ち上げ手順等をよりわかりやすくするとともに、各種様式の変更も行った。</td></tr> <tr> <td>◆市内の障がい者支援施設や事業所等が参加している「防災ネット会議」（主催：狛江市障害者団体連絡協議会）に参加し、災害時の障がい者支援等に関する情報交換を行った。</td><td>◆災害時の職員の初動対応等を記した災害対応ハンドブックを策定した。</td></tr> </tbody> </table>	2018年度目標値	2018年度実績値	◆「災害時における協力に関する協定」を締結している狛江青年会議所とともに「食と災害の豆本」を作成し、市内小中学校に配布した。	◆災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直しについては、写真や図を多く使い、災害ボランティアセンターの立ち上げ手順等をよりわかりやすくするとともに、各種様式の変更も行った。	◆市内の障がい者支援施設や事業所等が参加している「防災ネット会議」（主催：狛江市障害者団体連絡協議会）に参加し、災害時の障がい者支援等に関する情報交換を行った。	◆災害時の職員の初動対応等を記した災害対応ハンドブックを策定した。	<p><b>a 災害時の協力体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●狛江青年会議所と連携し作成した「食と災害の豆本」</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>食と災害の豆本</b></p> <p>災害が起きた時の備えはできていますか？</p> <p>普段からある食料品は、いついかにもして役立ります。買っ置きしている食料品の袋、消耗した際は削除していくべきです。</p> <p>*常備しておくべき食料品の例</p> <p>主食 小麦（精米・アフリカル）、レトルト（ほんたん）、小麦粉・パン、じら・乾餅（じらん）、そば・バムラウ、即席麺（かきめん）、シリアル類 主菜 丼（どん）、うどん（うどん）、パスタ（パスタ）、炒め物（炒めもの） 副菜 りんご（りんご）、洋芋（じょうぎ）、豆芽（とうめい）、じゅわ（じゅわ）</p> <p>このようないちのじ時に備えて、台所の食料品、保存の効く食料等を確認しておくといいのです。初めてのため持続的なものを使うものではなく、なるべく、普段の生活の中で利用しているものを使うことがポイントです。</p> <p>さあ、甲斐、ご自分の台所や戸棚（どらわら）のものがあるか、確認してみてください。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>Q. 災害に備え、家にある食料品をチェックしよう</p> <p>普段からある食料品は、いついかにもして役立ります。買っ置きしている食料品の袋、消耗した際は削除していくべきです。</p> <p>*常備しておくべき食料品の例</p> <p>主食 小麦（精米・アフリカル）、レトルト（ほんたん）、小麦粉・パン、じら・乾餅（じらん）、そば・バムラウ、即席麺（かきめん）、シリアル類 主菜 丼（どん）、うどん（うどん）、パスタ（パスタ）、炒め物（炒めもの） 副菜 りんご（りんご）、洋芋（じょうぎ）、豆芽（とうめい）、じゅわ（じゅわ）</p> <p>このようないちのじ時に備えて、台所の食料品、保存の効く食料等を確認しておくといいのです。初めてのため持続的なものを使うものではなく、なるべく、普段の生活の中で利用しているものを使うことがポイントです。</p> <p>ローリングストック法を試してみよう</p> <p>普段食っている食料品を少しずつ（1箇所）削除していくとき、消費期限が近いものから食べ、同時に新しい食料品を補充していく方法です。災害に備えて、一概に削除してみてください。</p> </div> </div>
2018年度目標値	2018年度実績値																					
●関係機関との連携 ・関係機関等と連携した訓練 ※狛江市総合防災訓練への参加回	●関係機関との連携 ・野川地区避難所運営協議会と連携し狛江市総合防災訓練に参加1回																					
●講座等 ・1回（参加者20名～）	●講座等 ・1回（参加者21名） ※「いのちを守る、身近な防災～地震I T S U M O講座～」をボランティアのつどいと同日に開催。																					
2018年度目標値	2018年度実績値																					
●訓練の実施 ・1回（参加者10名～、2団体～と連携）	●訓練の実施 ・1回（参加者9名、1団体（野川地区避難所運営協議会）と連携） ※市総合防災訓練と連携し実施																					
●マニュアルの見直し ・訓練を通して、適宜検証・見直しを行う。	●マニュアルの見直し ・訓練を踏まえ、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直しを行った。また、マニュアルを当会ホームページに公開した。																					
2018年度目標値	2018年度実績値																					
◆「災害時における協力に関する協定」を締結している狛江青年会議所とともに「食と災害の豆本」を作成し、市内小中学校に配布した。	◆災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直しについては、写真や図を多く使い、災害ボランティアセンターの立ち上げ手順等をよりわかりやすくするとともに、各種様式の変更も行った。																					
◆市内の障がい者支援施設や事業所等が参加している「防災ネット会議」（主催：狛江市障害者団体連絡協議会）に参加し、災害時の障がい者支援等に関する情報交換を行った。	◆災害時の職員の初動対応等を記した災害対応ハンドブックを策定した。																					
課題解決への今後の取組み																						

施策評価の目安 A-設定した目標を超える成果を得た B-設定した目標に概ね達し、一定の成果を得た C-設定した目標の多くを達成できず、重要な課題も残った D-設定した目標を全く実施できず、成果も不十分であった